多国籍企業内の組織行動

国際商経学部 大野 陽子

キーワード 多国籍企業、経営管理、課題提示、ブリッジ機能、情報移転**研究概要**

多国籍企業で情報獲得・移転の機能を担っている個人の行動について研究しています。組織内の個人の行動のメカニズムを明らかにすることで、組織を効率的に管理し、継続的に維持することの一助となることを目指しています。企業が存続するためには、企業を取り巻く環境である取引相手、出資者、顧客や従業員との関係における変化に対応していく必要があります。そのためには、変化を示す情報を企業は獲得・処理をしたのち、進むべき方向を決定しなければなりません。特に多国籍企業では、本社とは異なった文化、制度、言語に直面する多くの海外子会社があるため、情報自体を本社が理解できる形で伝達する必要があります。これまでの研究で、情報を獲得する個人の能力や意志などが情報移転に影響を与えることが明らかになっています。しかし、情報が取捨選択され、解釈を伴うものであるという性質から、情報量や内容が取り扱う個人によって変化するという視点から、情報処理・伝達行動が情報の変容を引き起こすという事象についてさらに質的な方法で研究する必要があると考えます。さらに、組織内で情報処理行動だけでなく、能動的に課題を提示するプロアクティブ行動についても研究をしています。これら研究は、多国籍企業だけではなく普遍的に、働く人々の行動と組織の効率的な管理に役立つと考えています。

アピールポイント

多国籍企業での長年の管理職経験から実務についても精通しており、その知見と経験に基づき、アカデミアと実践の橋渡しを提供できると考えています。モチベーションやリーダーシップなど組織と人のマネジメントに関わる管理職対象の講座も担当した経験があります。

応用分野

組織文化、組織学習など組織に属する個人の行動に影響を与える要因についても研究をしています。また、研究の方法としてブレインストーミングやJK法なども取り入れることができます。